



ABAスタジオ  
**collet**  
これっと

# アレルギー対応マニュアル

一般社団法人ポジティブサポート

ABA スタジオこれっと

## アレルギー対応マニュアル

### 【はじめに】

このマニュアルは施設を運営するにあたって食事（おやつ、プログラムでの調理）を提供するときに注意しなければならないアレルギーについて、また食品以外での注意すべきアレルギーについても留意点を記載するものである。さらにこのマニュアル通りの対応を行うことで、アレルギーに関する事故を防ぐものとする。

### 【食物アレルギー】

- ① 食物アレルギー体質の利用者がいることを理解し把握する
- ② 食物アレルギー体質の利用者のアレルゲンとなる食材が含まれないよう、アレルギー表示を見て食材を購入する。※同じ製造ラインにアレルゲンとなる食材が含まれている場合にも注意する。
- ③ 食材購入後には、施設内で別職員がアレルギー表示を再度確認する。
- ④ プログラムを立てる際はアレルギー体質の利用者がいることを考慮する。

※食物アレルギーの他、動植物や金属などその他のアレルギー体質の利用者についても職員間で把握し対応に注意する。

アレルギー特定原材料 28 品目

- 1) 食物アレルギーを起こす食品のうち発症者数や症状の重症度が高く、表示する必要性の高い食品 7 品目を「特定原材料」として表示を義務づけている。
- 2) 21 品目を「特定原材料に準ずるもの」として、可能な限り表示するよう推奨しているこの 28 品目は下記参照とする

## アレルギー特定原材料等 28 品目のイラスト

### <特定原材料>



### <特定原材料に準ずるもの>



## 主なアレルギー症状一覧表

皮膚症状	かゆみ、じんましん、むくみ、赤くなる、湿疹
呼吸器症状	くしゃみ、鼻づまり、鼻水、せき、息が苦しい（呼吸困難）、ゼーゼー・ヒューヒュー（喘鳴）、犬が吠えるような甲高いせき、のどが締め付けられる感じ
粘膜症状	眼：充血、眼のまわりのかゆみ、涙目
口腔	口腔・唇・舌の違和感・はれ
消化器症状	下痢、気持ちが悪い、吐き気、嘔吐、血便
循環器症状	脈が速い・触れにくい・乱れる、手足が冷たい、唇や爪が青白い（チアノーゼ）、血圧低下
神経症状	元気がない、ぐったり、意識朦朧、尿や便をもらす
全身症状	アナフィラキシー

### 【症状】

アレルギーの症状は多岐にわたる。最も多いのが皮膚症状である。呼吸器症状、消化器症状なども同時にまたは別々に発症する（「主なアレルギー症状の一覧」参照）。

症状が重いものだと「アナフィラキシーショック」があげられる。アナフィラキシーショックの症状としては呼吸困難や意識障害などがあり、命に係わる場合もある。

### 【緊急性が高い症状】

全身の症状	呼吸器の症状	消化器の症状
<input type="checkbox"/> ぐったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす <input type="checkbox"/> 脈が触れにくい、または不規則 <input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸（ぜん息発作と区別できない場合を含む）	<input type="checkbox"/> 持続する強い（がまんできない）お腹の痛み <input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける

### 【緊急時の対応】

#### 1. 緊急性の判断と対応

- ① 発見者は子供から目を離さない、ひとりにしない
- ② 助けを呼び、人を集める。管理者に報告する
- ③ 緊急性が高い症状に1つでも当てはまる場合は、ただちにエピペン®を使用する、又は119番に通報する。
- ④ 保護者に連絡する。
- ⑤ その場で安静にする（立たせたり、歩かせたりしない！）
- ⑥ その場で救急隊を待つ
- ⑦ 可能なら内服薬を飲ませる
- ⑧ エピペン®を使用し10～15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエピペン®を使用する（2本以上ある場合）
- ⑨ 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う

## 2. 119 番通報

- ① 救急車が迅速に到着できるように、事前に事業所の案内方法を想定しておく。  
(目標となる建造物等の確認)
- ② 利用者の状態を簡潔明瞭に伝える。
  - ・意識(意識がない・反応がない・呂律が回らない等)
  - ・呼吸(呼吸がない・呼吸が速い・遅い・弱い等)
  - ・脈拍(脈拍がない・脈拍が速い・遅い・弱い等)
  - ・体温(高い・低い)
  - ・吐血、下血(色・量・回数等)
  - ・嘔吐(嘔吐物の色・量・形状等) ※状態を記録する。

## 3. 応急処置

医療行為はできないが、状況に応じて可能であれば、次の一般的な処置を行う。

- ・口腔内の異物等の確認及び除去
- ・気道の確保
- ・人工呼吸
- ・心臓マッサージ
- ・状況に応じ、近くに AED があれば対応

## 4. 救急車の誘導と到着後

- ① 道路に出て、救急車を誘導する。
- ② 利用者の状態を落ち着いて説明する。
- ③ 状況を詳しい者が救急車に同乗する。

### 【結果の報告・記録】

- ① 対応結果について、保護者に報告する。
- ② 緊急事態又は事故の発生から対応までの一連の経緯について記録する。特に事故については、この記録に基づき事故の要因分析や具体的な再発防止策を検討・実践していくことになるので、従業者の記憶の定かな早い段階での確実な事実の確認と記録が求められる。
- ③ 対応手順に問題点がないか等を検討し、以後の対応をさらに向上させる事例として活用する

### 【情報収集と更新】

- ① 情報は一覧表にして、職員がいつでも確認できるようにする。
- ② 保護者と連絡を密に取り、情報の追加、変更等がある場合はその都度更新し周知する。

令和 5 年 5 月施行